

入 札 公 告

次のとおり一般競争入札に付します。本案件は、競争参加資格確認のための証明書等（以下、「証明書等」という。）の提出、入札及び契約を電子調達システム（G E P S）で行う対象案件です。

令和5年5月22日

支出負担行為担当官

海上保安庁総務部長 勝山 潔

◎調達機関番号 020 ◎所在地番号 13

○特機契第 1147 号

1 調達内容

(1) 品目分類番号 26

(2) 購入等件名及び数量

放射能測定装置 1 式ほか 2 式買入

(3) 調達案件及び仕様等 仕様書による。

(4) 納入期限 令和6年3月31日

(5) 納入場所 海上保安庁ほか4箇所

(6) 入札方法 総価で行う。落札者の決定に当た

っては、入札書に記載された金額に当該金額の10%に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

(7) 電子調達システム（G E P S）の利用本案件は、申請書等の提出、入札及び契約を電子調達システムで行う対象案件である。なお、電子調達システムによりがたい場合は、紙入札方式参加願、紙契約方式承諾願を提出し、紙入札方式、紙契約方式に代えることができる。

2 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締

結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。

(2) 予決令第 71 条の規定に該当しない者であること。

(3) 令和 4・5・6 年国土交通省競争参加資格(全省庁統一資格)において、「物品の販売」の A, B, C 又は D 等級に格付けされ、関東・甲信越地域の競争参加資格を有するものであること。

(4) 当該部局において指名停止の措置を受け、指名停止期間中でない者。

(5) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注の公共事業等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

(6) 電子調達システムによる場合は、電子証明書を取得していること。

(7) 競争参加資格の申請の時期及び場所「競争参加者の資格に関する公示」(令和 5 年 3 月 31 日付

官報)に記載されている時期及び場所で申請を受け付ける。

3 入札書の提出場所等

(1) 電子調達システムのURL及び問い合わせ先 政府電子調達 (G E P S)

<https://www.geps.go.jp/> 電子調達システムヘルプデスク TEL0570-014-889

(2) 入札方式による入札書等の提出場所、契約条項を示す場所、入札説明書の交付場所及び問い合わせ先 〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3 海上保安庁総務部政務課予算執行管理室 第二契約係 岩本 修平 電話 03-3591-6361 内線 2831

(3) 入札説明書の交付方法 仕様書等(入札説明書含む)の交付は、当庁ホームページの「調達情報」の「入札・落札等の状況」から、ダウンロードすること。

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/nyusatsu/tyoutatuitiran.html>

また、郵送により交付を希望する者はA4判用紙が入る返信用封筒（宛先を明記する。）並びに重量200gに見合う郵便料金に相当する郵便切手又は国際返信切手券を添付して(2)の係に申し込むこと。

(4) 電子調達システム及び紙入札による競争参加のために必要な証明書等の受領期限

令和5年6月21日 17時00分

(5) 電子調達システムによる入札及び紙入札による入札書の受領期限

令和5年8月8日 17時00分

(6) 開札の日時及び場所

令和5年8月9日 13時30分

海上保安庁入札室

4 その他

(1) 契約手続において使用する言語及び通貨
日本語及び日本国通貨。

(2) 入札保証金及び契約保証金 免除

(3) 入札の無効 本公告に示した競争参加資格のない者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札。

(4) 契約書作成の要否 要。

本業務は、契約手続きにかかる書類の授受を電子調達システムで行う対象業務である。

なお、電子調達システムによりがたい場合は、発注者の承諾を得て紙契約方式に代えるものとする。

(5) 落札者の決定方法 予決令第 79 条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。

(6) 手続きにおける交渉の有無 無

(7) その他 詳細は、入札説明書による。

5 Summary

(1) Official in charge of disbursement of the procuring entity: KATSUYAMA Kiyoshi, Vice

Commandant, Japan Coast Guard.

(2) Classification of the services to be procured: 26

(3) Nature and quantity of the products or service to be purchased or required.:
Radioactivity Measuring instrument 1 set and
2 set

(4) Delivery limit: 31.March.2024.

(5) Delivery place: Japan Coast Guard and
other 4 places

(6) Qualifications for participating in the tendering procedures; Supplier eligible for participating in the proposed tender are those who shall;

(a) not come under Article 70 of the Cabinet Order concerning the Budget, Auditing and Accounting. Furthermore, minors, Person under Conservatorship or Person under Assistance

that obtained the consent necessary for concluding a contract may be applicable under cases of special reasons within the said clause;

(b) not come under Article 71 of the Cabinet Order concerning the Budget, Auditing and Accounting;

(c) have Grade A to D level of interest in Selling in Kanto • Koshinetsu area in terms of the qualification for participating in the tenders by the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (Single qualification for every ministry and agency) in the fiscal years, 2022•2023•2024.

(d) The person who is not being suspended from Transactions by the request of the officials in charge of contract.

(e) not be the business operators that a

gangster influences management substantially or the person who has exclusion request from Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism is continuing state concerned.

(7) Time-limit for tender;
17:00, 8. August. 2023.

(8) Contact point for the notice: IWAMOTO Shuhei, Contract and Accounts Office, Budget Division, Administration Department, Japan Coast Guard, 2-1-3, Kasumigaseki Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8976 Japan. TEL 03-3591-6361 ext. 2831

入 札 説 明 書

(最低価格落札方式)

契約番号： 特機契第 1147 号

契約件名： 放射能測定装置1式ほか2式買入

項目及び構成

- 1 契約担当官等
- 2 調達内容
- 3 競争参加資格
- 4 入札参加申込手続き
- 5 入札書及び関係書類の提出場所等
- 6 その他

- 別紙－1 入札書（海上保安庁様式）
- 様式－1 紙入札方式参加願
- 様式－2 紙契約方式承諾願
- 様式－3 確認書（電子入札参加申し込み用）
- 様式－4 電子証明書変更承諾申請書
- 様式－5 期間委任状
- 様式－6 都度委任状
- 別冊 契約書（案）
- 別冊 仕様書
- 別冊 仕様確認申請書

入 札 説 明 書

海上保安庁の調達契約に係わる入札公告（令和5年5月22日付）に基づく入札については、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令昭和22年勅令第165号）、契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）等に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

1 契約担当官等

支出負担行為担当官

海上保安庁総務部長 勝山 潔

2 調達内容

(1) 契約件名

放射能測定装置1式ほか2式買入

(2) 契約内容

仕様書のとおり

(3) 納入期限

令和6年3月31日

(4) 納入場所

海上保安庁ほか4箇所

(5) 仕様説明会の日時等

仕様説明会は実施しない。

なお、仕様内容について質疑等がある場合は、下記へ連絡すること。

仕様書等に関する問い合わせ先

〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3

海上保安庁交通部航行安全課 伊東

03-3591-6361

(内線6432)

(6) 入札方法

原則として、当該入札の執行において入札執行回数は2回を限度とする。

なお、当該入札回数までに落札者が決定しない場合は、原則として予算決算及び会計令第99条の2の規定に基づく随意契約には移行しない。

また、電子調達システムにより難しい者は、発注者に紙入札方式参加願及び紙契約方式承諾願を提出して紙入札方式、紙契約方式に代えるものとする。落札者の決定は、最低価格落札方式をもって行う。

① 入札者は、一切の経費を含め契約金額を見積もるものとする。

② 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10%に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数がある時は、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を記載した入札書を提出しなければならない。

③ 入札者は、入札説明書、仕様書等を熟覧のうえ入札しなければならない。この場合において入札説明書、仕様書等について疑義があるときは、入札書受領の締め切り前までに関係職員の説明を求めることができる。

(7) 入札保証金及び契約保証金 免除

3 競争参加資格

- (1) 予算決算及び会計令第70条の規定に該当しない者であること。
なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。
- (2) 予算決算及び会計令第71条の規定に該当しない者であること。
- (3) 以下の各号のいずれかに該当し、かつその事実があった後2年を経過していない者。（これを代理人、支配人その他の使用人として使用する者についてもまた同じ。）
 - (ア) 契約の履行に当たり故意に工事若しくは製造を粗雑にし、又は物件の品質若しくは数量に関しての不正の行為をした者
 - (イ) 公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し若しくは不正の利益を得るために連合した者
 - (ウ) 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げた者
 - (エ) 監督又は検査の実施に当たり職員の執行を妨げた者
 - (オ) 正当な理由がなくて契約を履行しなかった者
 - (カ) 前各号のいずれかに該当する事実があった後2年を経過しない者を、契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用した者
- (4) 令和4・5・6年度国土交通省競争参加資格（全省庁統一資格審査）において「物品の販売」のA、B、C又はD等級に格付けされ、関東・甲信越地域の競争参加資格を有する者であること。（ただし指名停止期間中にあるものは除く。）
なお、競争参加資格を有しない者で当該入札に参加を希望する者は速やかに資格審査申請を行う必要があるので下記5(2)へ問い合わせること。
- (5) 警察当局から暴力団員が実質的に経営を支配する者又はこれに準ずる者として国土交通省公共事業等からの排除要請があり当該状態が継続している者でないこと。

4 入札参加申込手続き

- (1) 申込方法
入札参加希望者は、4（5）の各書類を各提出先に持参又は郵送すること。（電子調達システムにより提出するものは除く）
なお郵送にて提出する場合は、提出期限までに提出先に必着すること。（郵送の場合は、配達証明が確認出来るものに限る）
また、代表者から委任を受けている者（以下「受任者」という）が入札を行う場合は期間委任状（様式5）又は都度委任状（様式6）を入札参加手続きまでに提出する（当該委任に係る委任者及び受任者が同じであり、かつ委任事項に変更がない限り、あらかじめ入札等に関する委任状を提出することにより、当該年度に限り、委任状をその都度提出することを省略することができる。この場合において、特定の入札等に関してのみこれと異なる代理人を選任して委任することは認めない。）。

期間委任状について

- a 入札、見積についての権限及び契約締結についての権限が委任されていなければならない。
- b 電子入札においては、復代理は認めない。
- c 委任期間は当該年度内を限度とする。
- d 代表者及び受任者の記名・押印された委任状（書面）の提出とする。
- e 原則として期間委任状の委任期間中の都度委任状の提出は認めない。

- (2) 電子調達システムによる証明書等の送信方法
 電子調達システムによる入札参加の申込みを行う場合の使用アプリケーション及びバージョンの指定及び、保存するファイルの形式は次のいずれかとする。

番号	使用アプリケーション	保存するファイル形式
1	一太郎	Pro3形式以下のもの
2	Microsoft Word	Word2016形式以下のもの
3	Microsoft Excel	Excel2016形式以下のもの
4	その他のアプリケーション	PDFファイル 画像ファイル(JPEG形式及びGIF形式) 上記に加え特別に認めたファイル形式

- (3) ファイル圧縮方法の指定
 ファイルを圧縮して送信する場合は、LZH又はZIP形式とする。（自己解凍方式は不可）
- (4) ファイル容量が大きく電子調達システムにより証明書等を送信できない場合証明書等のファイル容量が10MBを超える場合には、電子調達システムによる入札参加申し込みに必要な「確認書」及び「資格審査結果通知書（写）」のみを、1つのファイルとして（例えばPDF形式のファイル）まとめたものを、電子調達システムから送信し、それ以外の証明書等については、直接5(2)の契約係担当者に手渡すこと。
 直接手渡すことができない場合は、郵送又は民間事業者による信書の送達に関する法律（平成14年法律第99号）第2条第6項に規定する一般信書便事業者若しくは同条第9項に規定する特定信書便事業者による同条第2項に規定する信書便（以下「郵送等」という。）による提出をすることが出来る。この場合、事前に5(2)にその旨を連絡すること。
 なお、参加資格確認後は、入札参加申込者に対して電子調達システムにより通知又は確認通知書を送付する。

- (5) 証明書等の提出期限 令和5年6月21日 17時00分
 各提出書類の提出先は次のとおりです。
 ○電子調達システムにより入札参加する場合
- ・確認書（電子入札用）（電子調達システムにより提出）
 - ・資格審査結果通知書（写）（電子調達システムにより提出）
 - ・仕様確認申請書（提出先上記2（5））

- 紙入札により入札参加する場合
- ・紙入札方式参加願（紙入札用）（提出先下記5（2））
 - ・資格審査結果通知書（写）（提出先下記5（2））
 - ・仕様確認申請書（提出先上記2（5））

- (6) 証明書等審査結果の通知
 4(1)により提出された証明書等の審査結果を、令和5年7月21日までに電子調達システム又は文書等により通知する。

※ 電子調達システム又は紙入札方式参加願による入札参加申込手続きをとらなかった場合は、入札に参加できないので注意すること。

※ 入札参加申込手続き後に辞退する場合は、開札日までに「入札辞退書」を5(2)へ提出すること。
なお、入札辞退書等は下記アドレスにて公開しているのでダウンロードして提出すること。
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/tyoutatu/youshikitou.html>

5 入札書及び関係書類の提出場所等

(1) 入札書は電子調達システムにより提出すること。

ただし、発注者に紙入札方式参加願を提出した場合は紙により提出すること。

電子調達システムのURL及び問い合わせ先

政府電子調達システム <https://www.geps.go.jp/>
電子調達システムヘルプデスク TEL 0570-014-889

(2) 入札書等の提出場所及び契約条項を示す場所及び問い合わせ先

東京都千代田区霞が関2-1-3

海上保安庁総務部政務課予算執行管理室第二契約係 岩本 修平
TEL03-3591-6361 内線 2831

(3) 入札説明書（仕様書等添付）の交付期間

令和5年5月22日 から 令和5年6月21日

まで

(4) 入札書の提出期限

令和5年8月8日

17時00分

(5) 入札書の提出方法

① 電子調達システムによる場合

ア 入札書の様式は、電子調達システムによるものとする。

イ 入札書等の記載事項

a 契約件名は、定められた件名を記載するものとする。

b 入札者は、特に指示ある場合を除き、総価で入札しなければならない。

c 入札書等は、電子調達システムの入力画面上において作成するものとする。

(電子認証書を取得している者であること。)

ウ 入札書等の提出

a 入札書等は、電子調達システムにより、当該入札公告した期限までに到達するように提出しなければならない。

b 電子入札に利用することができる電子証明書は、資格審査結果通知書に記入されている者（以下「代表者」という。）又は代表者から入札・見積権限及び契約権限について期間委任により委任をうけた者の電子証明書に限る。

② 紙による入札の場合

ア 入札書の様式は、別紙-1によるものとする。

イ 入札書等の記載事項

a 契約件名は、定められた件名を但しがきのあとに記載するものとする。

b 入札者は、特に指示ある場合を除き、総価で入札しなければならない。

c 入札書に記載する日付は、入札書を提出する日とする。

d 入札書には、入札者の住所及び氏名を記載しなければならない。

e 受任者（以下「代理人」という）が入札を行う場合は、代理人の住所、氏名（法人にあつては、所在地、法人名及び代理人の役職、氏名）を記載し、代理人の印鑑を押印しなければならない。以下、記載例による。

【記載例】

海保株式会社 代表取締役（社長） ○○ ○○ 代理
東京都千代田区霞ヶ関2-1-3
海保株式会社 東京支店（又は○○部）
支店長（又は○○部長）○○ ○○ 印

ウ 入札書等の提出

- a 入札書は、別紙の様式にて作成し、封筒に入れ、かつ、その封皮に「法人名等及び契約件名、開札年月日、「入札書在中）」を朱書するものとする。
- b 電報、ファクシミリ、電話その他の方法による入札は認めない。
- c 入札者は、その提出した入札書の引換え、変更又は取り消しをすることができない。

エ 郵送により提出する場合

支出負担行為担当官等あて郵送（書留郵便又は民間事業者による信書の伝達に関する法律（平成14年法律第99号）第2条第6項に規定する一般信書便事業者若しくは同条第9項に規定する特定信書便事業者（以下「一般信書便事業者等」という。）の提供する同条第2項に規定する信書便（以下「信書便」という。）の役務のうち、書留郵便に準ずるものとして一般信書便事業者等において当該信書物（同法第2条第3項に規定する信書便物をいう。）の引き受け及び配達記録をした信書便。）にすることができる。

郵送する場合においては、二重封筒とし、表封筒には「入札書在中」の旨を記載し、中封筒に入札書を入れ、かつ、その封皮に「法人名等及び契約件名、開札年月日、「入札書在中）」を朱書するものとする。ただし、入札書の提出期限までに到達するように提出しなければならない。

(6) 入札の無効

- ① 本入札説明書に示した競争参加資格のない者、入札条件に違反した者又は入札者に求められる義務を履行しなかった者の提出した入札及び次の各号の1に該当する入札は無効とする。
 - ア 委任状が提出されていない代理人のした入札
 - イ 所定の入札保証金又は入札保証金に代わる担保を納付し又は提供しない者のした入札
 - ウ 記名（外国人又は外国法人にあつては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。）を欠く入札
 - エ 金額を訂正した入札
 - オ 誤字、脱字などにより意志表示が不明瞭である入札
 - カ 公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を乱し、若しくは不正の利益を得るために連合した者の入札
 - キ 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね、又は2人以上の代理をした者の入札
 - ク 競争参加資格の確認のための書類などを添付することとされた入札にあつては、提出された書類が審査の結果採用されなかった入札
 - ケ 競争参加資格のあるものであつても、入札時点において、海上保安庁次長から指名停止措置を受け、指名停止期間中にある者のした入札
- ② 電子入札参加者は、電子証明書を不正使用等してはならない。
不正使用等した場合には当該電子入札参加者の入札への参加を認めないことがある。
なお、当該入札に関し入札権限のある他の電子証明書に変更しようとするときは、電子証明書変更承諾申請書（様式4）を提出すること。
また、電子証明書変更承諾申請書には変更後の電子証明書の企業情報登録画面を印刷したものを添付すること。

(7) 入札の延期等

入札者が相連合し又は不穩の挙動をする等の場合であつて、競争入札を公正に執行することができない状態にあると認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、若しくは入札の執行を延期し、又はこれを取り止めることがある。

- (8) 開札の日時及び場所
日時：令和5年8月9日 13時30分
場所：海上保安庁入札室
- (9) 開札
- ① 電子調達システムによる場合
- ア 開札及び開披（以下「開札等」という。）は、入札等執行事務に関係のない職員を立ち合わせてこれを行う。
- イ 開札等をした場合において、入札金額のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、原則として引続き再度入札を行う。
ただし、契約担当官等がやむを得ないと認めた場合には、契約担当官等が別途指定する日時に再度入札を行う。
- ② 紙による場合
- ア 開札等は、原則として、入札者又はその代理人が出席して行うものとする。
この場合において、入札者等が立ち会わないときは、入札等執行事務に関係のない職員を立ち合わせてこれを行う。
- イ 開札等をした場合において、入札金額のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、原則として引続き再度入札を行う。
ただし、契約担当官等がやむを得ないと認めた場合には、契約担当官等が別途指定する日時に再度入札を行う。
- ③ 入札者又はその代理人は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書等を提示しなければならない。
- ④ 入札者又はその代理人は、開札時刻後においては、開札場に入場することができない。
- ⑤ 入札者又はその代理人は、開札時刻後においては、契約担当官等が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。

6 その他

- (1) 契約手続に使用する言語及び通貨 日本語及び日本国通貨
- (2) 入札者に要求される事項
入札者等は、入札公告等で定められた要件を証明した書類を指定した期限までに提出しなければならない。
また、開札日の前日までの間において、契約担当官等から当該書類に関し説明を求められた場合には、それに応じなければならない。
- (3) 落札者の決定方法
- ① 本入札説明書に従い書類・資料を添付して入札書を提出した入札者であって、本入札説明書3の競争参加資格及び仕様を満たすことの出来ることの要求要件をすべて満たし、当該入札者の入札価格が予算決算及び会計令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であり、かつ、最低価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。
- ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき、又はその者との契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内をもって入札した者を落札者とする事があ

- ② 電子調達システムでは、入札参加者の利便性向上のため、電子くじ機能を実装している。電子くじを行うには、入札者が任意で設定した000～999の数字が必要になるので、電子入札事業者は、電子調達システムで電子くじ番号を入力し、紙入札事業者は、紙入札方式参加願に記載するものとする。
落札者となるべき同価格の入札をした者が2人以上あり、くじにより落札者の決定を行うこととなった場合には、以下のとおり行うものとする。
- ア 同価格の入札をした者が電子入札事業者のみの場合
電子入札事業者が入力した電子くじ番号を元に電子くじを実施のうえ、落札者を決定するものとする。
- イ 同価格の入札をした者が電子入札事業者と紙入札事業者が混在する場合電子入札事業者が入力した電子くじ番号及び紙入札事業者が紙入札方式参加願に記載した電子くじ番号を元に電子くじを実施のうえ落札者を決定するものとする。
- ウ 同価格の入札をした者が紙入札事業者のみの場合
その場で紙くじ（又は電子くじ）を実施のうえ落札者を決定するものとする。
- ③ 契約担当官等は、落札者を決定したときは、その翌日から7日以内にその旨を落札者とされなかった入札者に電子調達システム又は書面により通知する。
ただし、開札に立ち会った参加者については、書面による通知を省略する。
- (4) 契約書の作成（ただし、契約金額が150万円に満たない場合は省略することがある）
- ① 競争入札を執行し、落札者を決定したときは、当該落札者とすみやかに、契約書を取り交わすものとする。
- ② 契約書を作成する場合において、契約の相手方が遠隔地にあるときは、まず、その者が契約書の案に記名押印し、さらに契約担当官等が当該契約書の案の送付を受けてこれに記名押印するものとする。
- ③ 上記②の場合において契約担当官等が記名押印したときは、当該契約書の1通を契約の相手方に送付するものとする。
- ④ 契約担当官等が契約の相手方とともに契約書に記名押印しなければ、本契約は確定しないものとする。
- ⑤ 「電子調達システム」による電子契約を行う場合、電子調達システムで定める手続に従い、契約書を作成しなければならない。なお、電子調達システムによりがたい場合は、発注者の承諾を得て紙契約方式に代えるものとする。
紙契約方式の手続をする場合は、紙契約方式承諾願（電子、紙入札共通）を落札決定後に上記5（2）へ提出すること。
- (5) 電子入札参加者側の障害により入札書受付締切時間又は開札時間を延長する場合の基準及び取扱い
- 電子入札参加者側の障害により電子入札ができない旨の申告があった場合は、障害の内容と復旧の可否について調査確認を行うものとする
- すぐに復旧できないと判断され、かつ下記の各号に該当する障害等により、原則として複数の電子入札参加者が参加できない場合には、入札書受付締切予定時間及び開札予定時間の変更（延長）を行うことができるものとする。
- ①天災
②広域・地域的停電
③プロバイダ、通信事業者に起因する通信障害
④その他、時間延長が妥当であると認められた場合
（ただし、電子証明書の紛失・破損、端末の不具合等、入札参加者の責による障害であると認められる場合を除く）
- 変更後の開札予定時間が直ちに決定できない場合においては、その旨をすべての電子入札参加者に電話等で連絡するものとし、開札日時が決定した場合には、その旨を全ての電子入札参加者に電話等で連絡するものとする。

- (6) 発注者側の障害により電子入札書受付締切時間又は開札時間を延長する場合の取扱い

発注者側の障害が発生した場合は、電子調達システム運用主管組織（総務省）と協議し、障害復旧の見込みがある場合には、電子入札書受付締切予定時間及び開札予定時間の変更（延長）を行い、障害復旧の見込みがない場合には、紙入札に変更するものとする。

障害復旧の見込みがあるが、変更後の開札予定時間が直ちに決定できない場合においては、その旨を全ての電子入札参加者に電話等で連絡するものとし、開札日時が決定した場合には、その旨を全ての電子入札参加者に電話等で連絡するものとする。

- (7) 支払条件は、履行完了後の一括払いとする。

- (8) 上記によるもののほか、この一般競争入札に参加する場合において了知かつ、遵守すべき事項は、「海上保安庁入札・見積者心得」によるものとする。

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/tyoutatu/tyoutatu.html>

- (9) 入札者は、入札後、この入札説明書、仕様書等についての不明を理由として異議を申し立てることはできない。

入札書

一金

ただし 放射能測定装置1式ほか2式買入

入札・見積者心得及び入札説明書等を承諾の上、入札します。

令和 年 月 日

住 所

商号又は名称

代表者氏名

支出負担行為担当官
海上保安庁総務部長 殿

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。

(連絡先は2以上記載すること)

本件責任者(会社名・部署名・氏名) :

担当者(会社名・部署名・氏名) :

連絡先1 :

連絡先2 :

(注)1.用紙の寸法は、日本産業規格A列4判とする。

2.金額は「アラビア」数字で記入する。

紙入札方式参加願

(特機 1147)

1. 発注件名 放射能測定装置1式ほか2式買入

上記の案件は、電子調達システムを利用しての参加ができないため
紙入札方式での参加をいたします。

年 月 日

資格審査登録番号(業者コード)

企業名称

企業郵便番号

企業住所

代表者氏名

代表者役職

電子くじ番号

(連絡先)

電話番号

メールアドレス

入札者

住 所

企業名称

氏 名

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。

(連絡先は2以上記載すること)

本件責任者(会社名・部署名・氏名) :

担当者(会社名・部署名・氏名) :

連絡先1 :

連絡先2 :

支出負担行為担当官
海上保安庁総務部長 殿

※1. 入札者住所、企業名称及び氏名欄は、代表者若しくは委任を受けている場合は
その者が記載、押印する。

2. 電子くじ番号は、電子くじを実施する場合に必要となるので、000~999の任意の
3桁の数字を記載する。

紙契約方式承諾願

1. 件 名 放射能測定装置1式ほか2式買入

上記の案件は、電子調達システムを利用しての契約ができないため、
紙契約方式での手続きをいたします。

令和 年 月 日

住 所

商号又は名称

代表者氏名

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。

(連絡先は2以上記載すること)

本件責任者(会社名・部署名・氏名) :

担当者(会社名・部署名・氏名) :

連絡先1 :

連絡先2 :

支出負担行為担当官
海上保安庁総務部長 殿

(様式-3) 一般競争入札方式

○宛 先: 海上保安庁 総務部政務課 予算執行管理室 契約係

確認書

件名: 放射能測定装置1式ほか2式買入

本案件については、「電子入札方式」により参加します。

令和 年 月 日

企業名称

代表者

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。

(連絡先は2以上記載すること)

本件責任者(会社名・部署名・氏名):

担当者(会社名・部署名・氏名):

連絡先1:

連絡先2:

電子入札方式により参加する方は、本入札に使用するICカード券面の番号を記入してください。

【電子証明書の番号】「シリアルナンバー(SN)」、「ID」などの項目に続く

10桁の数字・英字(例:14桁、16桁)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【取得者名】

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(左つめで記入。「スペース」分も左詰めで記入。枠不足の際は、追加してください。)

*今回限定した上記の電子証明書以外を以後において使用した場合、「無効」の入札となることがあります。

*上に記入する「数字・英字」等は、誤記のないように十分留意してください。

(担当者連絡先)※押印省略する場合も、担当者のメールアドレスは必ず記載してください。

担当者名:

電話番号:

メールアドレス:

電子証明書変更承諾申請書

1. 発注件名:

2. 変更後の電子証明書番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3. 変更理由

上記案件について、電子調達システムにより入札に参加することとしていますが、使用している電子証明書について上記理由により開札までの間に使用できなくなることから、電子証明書の変更を承諾されたく申請します。

住所
氏名

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。
(連絡先は2以上記載すること)

本件責任者(会社名・部署名・氏名):

担当者(会社名・部署名・氏名):

連絡先1:

連絡先2:

支出負担行為担当官
海上保安庁総務部長 殿

上記については承諾します。

殿

令和 年 月 日
支出負担行為担当官
海上保安庁総務部長

入札参加者は、入札手続きの開始以降、使用していた電子証明書について、電子証明書発行機関の電子証明書の利用に関する規約上の失効事由が生じた場合又は有効期限の満了により開札までの間に使用することができなくなることが確実な場合において、当該入札に関し入札権限のある他の電子証明書に変更しようとするときは、発注者に電子証明書変更承認申請書(様式3)を提出するものとする。この場合において、電子証明書変更承諾申請書には、変更後の電子証明書の企業情報登録画面を印刷したものを添付することとする。

発注者(海上保安庁)は、変更後の電子証明書に関して入札権限等に問題がないことが確認できる場合についてのみ変更を承諾します。

様式5

期 間 委 任 状

受任者

住 所

氏 名

使用印

私は上記の者を代理人と定め

下記の権限を委任します。

委任期間 年 月 日から

年 月 日まで

委任事項

年 月 日

委任者 住所

商号又は名称

代表者氏名

支出負担行為担当官

海上保安庁総務部長 勝山 潔 殿

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。契約締結について委任する場合は押印省略不可。

(連絡先は2以上記載すること)
本件責任者(会社名・部署名・氏名):
担当者(会社名・部署名・氏名):
連絡先1:
連絡先2:

様式6

都 度 委 任 状

受任者

住 所

氏 名

使用印

私は上記の者を代理人と定め

「件名：放射能測定装置1式ほか2式買入」に関する下記の権限を委任します。

委任事項

1.

年 月 日

委任者 住所

商号又は名称

代表者氏名

支出負担行為担当官

海上保安庁総務部長 勝山 潔 殿

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。契約締結について委任する場合は押印省略不可。

(連絡先は2以上記載すること)
本件責任者(会社名・部署名・氏名):
担当者(会社名・部署名・氏名):
連絡先1:
連絡先2:

令和5年度

特機契第1147号

物品売買契約書

物品売買契約書

1. 契約件名 放射能測定装置1式ほか2式買入
2. 契約金額 金 円
うち取引に係る消費税額及び地方消費税額 金 円

内 訳

品 名	規 格	単 位	数 量	単 価	合 価	摘 要
別紙内訳のとおり						

3. 納入期限 令和6年3月31日
4. 納入場所 別紙内訳のとおり
5. 契約保証金 免除

上記物品の売買について、発注者 支出負担行為担当官 海上保安庁総務部長 勝山 潔 は、
受注者 と、次の条件により売買契約を締結する。

(総 則)

第1条 受注者は、仕様書、図面又は備付見本（以下「仕様書等」という。）に基づき、頭書の契約物品（以下「物品」という。）を納入期限までに、納入場所に納入するものとし、発注者は、これに対し、受注者に代金を支払うものとする。

(仕様書等の解釈)

第2条 物品に関する仕様書等について疑義を生じたときは、すべて発注者の解釈によるものとする。

(権利義務の譲渡等)

第3条 受注者は、発注者の書面による承認を得た場合を除くほか、次に掲げる行為をしてはならないものとする。

- (1) この契約の全部又は大部分の履行を第三者に委任すること。
- (2) この契約により生ずる権利若しくは義務を第三者に譲渡し、又は承継させること。

(設備等の調査)

第4条 発注者は、必要と認めるときは、職員を派遣し、受注者の設備、物品の製造過程その他契約履行の状況を調査することができるものとする。
この場合において、受注者は、発注者又は当該職員の指示に従わなければならない。

(代理人等の変更)

第5条 発注者は、受注者の代理人、使用人又は労務者のうち著しく不相当と認められるものがあるときは、受注者に対し、その事由を明示してその変更を求めることができる。

(物価変動等による契約金額の変更)

第6条 物価変動その他予期することのできない事由に基づく経済情勢の激変等により、契約金額が著しく不相当であると認められるに至った場合は、発注者受注者協議して、契約金額を変更することができるものとする。

(納入期限の変更等)

第7条 発注者は、その都合により納入期限又は納入場所を変更することができるものとする。

2 前項の場合において、契約金額を増減する必要があるときは、発注者受注者協議して、その金額を増減するものとする。

(納入の通知及び検査)

第8条 受注者は、物品を納入するときは、納品書をもってその旨を発注者に通知するものとする。ただし、物品の納入場所が海上保安庁の所在地以外の場所（以下「隔地」という。）である場合は、この限りでない。

2 受注者は、前項ただし書の場合においては、納入のため物品を隔地の納入場所に向けて発送したときは、直ちに、その旨を納入場所の発注者があらかじめ指定する職員その他の責任者に通知するものとする。

第9条 発注者は、前条第1項の納入の通知を受けたときは、納入場所において検査を行うものとする。

2 受注者は、納入場所が隔地である場合は、原料又は材料の配合、物品の性能等について検査を必要とする場合その他特別の事情がある場合には、発注者があらかじめ指示するところに従い、物品の納入又は発送前その他適当な時期に検査申請書をもって必要な検査を発注者に請求するものとし、発注者は、物品の所在地その他適当な場所で検査を行うものとする。

3 発注者は、前項の検査をした物品については、第1項の検査の一部を省略することがあるものとする。

4 発注者は、第1項及び第2項の検査については、検査を行うべきことを命じた職員（以下「検査職員」という。）により、納入の通知又は検査の請求を受理した日（これらの日以降において受注者が検査をなすべき日を指定したときは、その日）から10日以内（以下「検査期間」という。）に、仕様書等に指定した方法その他発注者の適当と認める方法によりこれを行うものとする。ただし、天災地変その他やむを得ない事由により検査をすることができない期間は、検査期間に算入しないものとする。

5 発注者は、検査職員を命じたときは、その官職、氏名及び検査時期を受注者に通知するものとする。

6 受注者は、第2項の検査に立ち会うものとする。この場合において、受注者が立ち会わないときは、発注者は、単独で検査を行い、その結果を受注者に通知するものとし、受注者は、これに対して不服を述べることができない。

7 受注者は、隔地の納入場所に物品が到着したときは、物品の数量及び運送によって生じた事故の有無について、納入場所における当該責任者の証明を受け、これを発注者に提出するものとする。この場合において、発注者は、受注者が物品到着後直ちに証明を受けることができるように措置をするものとし、又この提出した証明を認確することによって第1項の検査に代えるものとする。

8 物品の検査場所への運搬その他検査に要する費用及び検査のため通常生ずる変質、変形、消耗、破損等による損失は、受注者の負担とする。

(引渡物品の引渡)

第9条の2 発注者より受注者へ引渡す物品は、受注者からの納入物品受領後、評価当時の現状有姿のまま引渡場所において引渡すものとし、受注者は、直ちにこれを検査のうえ引き取るものとする。

2 前項の交換が終了した後において、発注者の引渡物品に本契約の内容に適合しないもの(契約不適合)を発見しても、受注者は、異論を申し立てないものとする。

(所有権の移転)

第10条 物品の所有権は、次項の場合を除き、納入場所において、発注者が物品を合格品と認め数量の確認を終ったとき、受注者から発注者に移るものとする。

2 隔地を納入場所とした物品の所有権は、納入場所において、前条第7項の責任者が同項の証明のための調査を終り、異状のないことを確認したときから、合格物品についてのみ受注者から発注者に移るものとする。

3 物品の性質上必要な容器、包装等は、発注者の所得とする。

(値引受領)

第11条 発注者は、物品に多少不備な点があっても、契約した目的を達するうえに支障がないと認めるときは、契約金額を相当額値引きして、これを受領することができるものとする。

(代品納入)

第12条 受注者は、第9条の規定による検査に合格しない物品があるときは、直ちに、その代品を納入するものとする。

2 この契約の条項は、前項の代品の納入について準用する。

(不合格品等の措置)

第13条 受注者は、発注者から物品の不合格又は過納の通知を受けたときは、遅滞なく不合格又は過納の物品を引き取るものとする。

2 発注者は、前項の場合において、相当期間内に受注者が不合格又は過納の物品を引き取らないときは、受注者の負担において、当該物品を他の場所に移し、又は第三者に保管を委託することができる。

(代金の支払)

第14条 発注者は、受注者が履行完了後提出する適法な支払請求書を受領した日から30日以内（以下「約定期間」という。）に、海上保安庁において、その代金を受注者に支払うものとする。

2 発注者は、受注者から支払請求書を受領した後、その請求書の内容の全部又は一部が不当であることを発見したときは、その事由を明示して、これを受注者に返付するものとする。この場合においては、その請求書を返付した日から発注者が受注者の是正した支払請求書を受領した日までの期間は、約定期間に算入しないものとする。ただし、その請求書の内容の不当が受注者の故意又は重大な過失によるものであるときは、適法な支払請求書の提出がなかったものとし、受注者の是正した支払請求書を受領した日から約定期間を計算するものとする。

(遅延利息)

第15条 発注者は、約定期間内に代金を支払わないときは、受注者に対し、遅延利息を支払わなければならない。

2 遅延利息の額は、約定期間満了の日の翌日から支払をする日までの日数に応じ、年2.5パーセントとする。ただし、受注者が代金の受領を遅滞した日数及び天災地変等やむを得ない事由により支払のできなかった日数は、約定期間に算入せず又は遅延利息を支払う日数に計算しないものとする。

3 前項の規定により計算した遅延利息の額が100円未満であるときは、遅延利息を支払うことを要せず、その額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てるものとする。

4 発注者が検査期間内に検査を終了しないときは、検査期間満了の日の翌日から検査を終了した日までの日数は、約定期間の日数から差し引くものとし、又検査の遅延した日数が約定期間の日数を超える場合は、約定期間は満了したものとみなし、発注者は、その超える日数に応じ、前3項の例に準じて計算した金額を受注者に支払うものとする。

(納入期限の延伸)

第16条 受注者は、納入期限までに物品を納入することができないときは、あらかじめ遅滞の理由及び納入可納期日を明示して、発注者に納入期限の延伸の承認を求めなければならない。

2 発注者は、前項の請求に対し、支障がないと認めたときは、これを承認するものとする。ただし、遅滞が天災地変その他受注者の責めに帰するこ

とのできない事由に基づく場合のほか、遅滞金を徴収する。

(遅滞金)

第17条 前条第2項ただし書の規定による遅滞金は、延伸前の納入期限満了の日の翌日から物品納入の日までの日数に応じ、当該納入物品の契約金額の年3パーセントに相当する金額とする。ただし、その総額が契約金額の10分の1を超える場合は、その超過額は遅滞金に算入しないものとする。

2 前項の遅滞日数の計算については、発注者が第8条第1項の納入の通知又は第9条第2項の検査の請求を受理した日（これらの日以後において受注者が検査をなすべき日を指定したときはその日）の翌日から検査終了の日（不合格品については、不合格通知の日）までの日数は、これを遅滞日数に算入しないものとする。

(危険負担)

第18条 物品の所有権が移転する以前に生じた物品の亡失、変質、変形、消耗、破損等による損失は、すべて受注者の負担とする。ただし、発注者の故意又は重大な過失による場合は、この限りでない。

(契約不適合責任)

第19条 受注者は、物品の所有権移転後1年（物品が発注者の建造する船舶に装備されるべきものである場合は、物品の引渡しの日から物品を装備した船舶を発注者が引渡しを受けた後1年を経過する日まで間）以内に、その物品が種類、品質又は数量に関して契約の内容に適合しないもの（以下「契約不適合」という。）であることが発見されたときは、発注者（船舶の配属先の管区本部長を含む。）の請求により、同種の良品と引き換え、若しくは修理（物品の引取り、引渡期間を含め30日以内に修理完了するものに限る。）をし、又は発注者の算定した時価相当額をもってその損失額を弁償するものとする。

2 前項の期間は、契約不適合が行政庁の検査を受検するとき以外に発見できないものであるときは、物品を装備した船舶を発注者が引渡しを受けた後1年以上1年半を経過する日までの範囲内において最初の検査終了の時までとする。

3 第1項の期間は、契約不適合が行政庁の検査を受検するとき以外に発見できないものであるときは、物品の引渡しの日から物品を装備した船舶を発注者が引渡しを受けた後1年以上1年半を経過する日までの範囲内において最初の検査終了の時までとする。

(契約の解除)

第20条 下記各号の一に該当するときは、発注者は、この契約の全部又は一部を解除することができる。

- (1) 受注者から解約の申出があったとき。
- (2) 受注者が納入期限までに物品を納入しないとき又は納入期限までに物品を納入する見込みがないことが明らかなきとき。
- (3) 物品が不合格となったとき。(納入期限前に物品が不合格となり納入期限内に合格品の納入の見込みがない場合を含む。)
- (4) この契約の履行について、受注者又はその代理人若しくは使用人等に不正の行為があったとき又はこれらの者が発注者の行う調査若しくは検査を妨げ、若しくは妨げようとしたとき。
- (5) 受注者が第3条の規定に違反したとき。
- (6) 前各号のほか受注者が契約に違反し、そのため発注者が契約の目的を達することができないとき。
- (7) 受注者が破産の宣告を受け、又は居所不明となったとき。

2 前項第1号から第6号までの場合において、受注者は違約金として、契約解除金額に対する10分の1に相当する金額を発注者に支払わなければならない。ただし、第1号から第3号の場合において、受注者の責に帰することのできない事由があるときは、この限りではない。

3 受注者(受注者が共同企業体であるときは、その構成員のいずれかの者。以下この項において同じ。)が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

- (1) 役員等(受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この条において同じ。)が、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。)第2条第6号に規定する暴力団員(以下「暴力団員」という。)であると認められるとき。
- (2) 暴力団(暴力団対策法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。
- (3) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
- (5) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき
- (6) 下請契約その他の契約に当たり、その相手方が第一号から第五号までのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき

(7) 受注者が、第一号から第五号までのいずれかに該当する者を下請契約その他の契約の相手方としていた場合(第六号に該当する場合を除く。)に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

4 前項の規定によりこの契約が解除された場合においては、受注者は、契約金額の10分の1に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。ただし、第1項第1号から第3号までの場合において、受注者の責めに帰することのできない事由があるときは、この限りでない。

第21条 発注者は、前条に定める場合のほか、自己の都合により契約の全部又は一部を解除することができる。この場合において、受注者に損害が生じ解約後30日以内に請求があるときは、発注者は、その損害を賠償するものとする。

2 前項の損害額は、発注者受注者協議して定めるものとする。

(相殺等)

第22条 この契約により発注者が受注者から取得すべき遅滞金、違約金等の金額がある場合において、発注者が当該金額と相殺することができる債務を受注者に対し有するときは、これを相殺するものとする。

2 前項の規定により相殺を行っても、なお発注者において取得金がある場合又は発注者が遅滞金、違約金等を徴収する場合において、受注者が発注者の指定する相当の限期までにこれらの金額を支払わないときは、受注者は、発注者に対し、遅延利息を支払わなければならない。ただし、当該取得金、遅滞金又は違約金が1,000円未満の場合は、この限りでない。

3 第15条第2項及び第3項の規定は、前項の遅延利息について準用する。この場合において、同条第2項中「年2.5パーセント」とあるのは「年3パーセント」と、同項ただし書中「受注者」とあるのは、「発注者」と、第3項中「100円」とあるのは「1円」と読み替えるものとする。

(談合等不正行為があった場合の違約金等)

第23条 受注者が、次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、受注者は、発注者の請求に基づき、契約金額(この契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額)の10分の1に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。

(1) この契約に関し、受注者が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。)第3条の規定に違反し、又は受注者が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が受注者に対し、独占禁止法第7条の2第1項(独占禁止法第8条の3において準用する場合を含む。)の規定に基づく課徴金の納付命令(以下「納付命令」

という。)を行い、当該納付命令が確定したとき(確定した当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消された場合を含む。)

(2) 納付命令又は独占禁止法第7条若しくは第8条の2の規定に基づく排除措置命令(これらの命令が受注者又は受注者が構成事業者である事業者団体(以下「受注者等」という。に対して行われたときは、受注者等に対する命令で確定したものをいい、受注者等に対して行われていないときは、各名宛人に対する命令すべてが確定した場合における当該命令をいう。次号において同じ。)において、この契約に関し、独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為の実行としての事業活動があったとされたとき。

(3) 前号に規定する納付命令又は排除措置命令により、受注者等に独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が当該期間(これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が受注者に対して納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。)に入札(見積書の提出を含む。)が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。

(4) この契約に関し、受注者(法人にあっては、その役員又は使用人を含む。)の刑法(明治40年法律第45号)第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

2 受注者が前項の違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、受注者は、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、年3パーセントの割合で計算した額の遅延利息を発注者に支払わなければならない。

(秘密の保全)

第24条 受注者及び発注者は、この契約の履行に際し、知得した相手方の秘密を第三者に漏らし、又は利用してはならない。

(契約外の事項)

第25条 この契約に定めない事項又はこの契約の履行について、疑義又は紛議を生じたときは、発注者受注者協議して定めるものとする。

以上契約を証するため、この証書2通を作成し、発注者受注者各1通を保有する。

令和 年 月 日

発注者	住	所	東京都千代田区霞が関2-1-3
	氏	名	支出負担行為担当官 海上保安庁総務部長 勝山 潔

受注者	住	所	
	氏	名	

放射能測定装置 1 式ほか 2 式買入

令和 5 年 4 月

海上保安庁

目次

第1章 総則.....	1
1.1 目的.....	1
1.2 用途.....	1
1.3 適用規格.....	1
1.4 履行期限.....	1
1.5 引渡場所.....	1
1.6 提出図書.....	1
1.7 提出図書の利用.....	2
1.8 その他.....	2
第2章 装置の概要.....	3
第3章 安全性の確保.....	3
第4章 構造.....	3
第5章 表示画面.....	3
第6章 警報.....	3
第7章 操作方式.....	4
第8章 データ収集装置の機能等.....	4
第9章 塗装.....	4
第10章 検査・試験.....	4
第11章 提出図書.....	5
11.1 協議用図書.....	5
11.2 工事用図書.....	5
11.3 完成図書.....	5

第1章 総則

1.1 目的

この仕様書（以下、「本書」という。）は、放射能調査艇「さいかい」に搭載する放射能測定装置（以下、「搭載型測定器」という。）及び放射能調査予備艇「ことぞくら」に搭載する可搬型放射能測定装置（以下、「可搬型測定器」という。）について規定する。

1.2 用途

各測定器は、空間 γ 線を検出して空間放射線量率の指示、警報及び記録を行うものである。また、水中 γ 線を検出して放射線計数率の指示、警報及び記録を行うものである。記録した測定データは放射能調査艇「さいかい」及び放射能調査予備艇「ことぞくら」それぞれに搭載された通信機器に接続し、指定の監視局（監視局は本契約範囲外）へ送信する。なお、記録をはじめとする各測定器等の表記については、全て日本語表記とする。

1.3 適用規格

次の規格に定めるところに従い設計されているほか、別紙に定められた各測定器の仕様を網羅すること。

搭載型測定器（別紙1）：JIS Z 4325（環境 γ 線連続モニタ）

可搬型測定器（別紙2）：JIS Z 4325-2008（環境 γ 線連続モニタ、放射線測定用タリウム活性化ヨウ化ナトリウムシンチレータ、 γ 線検出形水モニタ）

1.4 履行期限

令和6年3月31日

1.5 引渡場所

本庁ほか4箇所

詳細は本書末尾「納入場所等内訳書」のとおり

1.6 提出図書

納入業者は、第11章に定める図書を提出すること。

なお、図書は日本語とし、各図書の計量単位表示は、SI単位を使用するものとする。

1.7 提出図書の利用 納入に関して提出された図書については、全て海上保安庁が利用（複写等）できるものであること。

1.8 その他

- (1) 各測定器及び付属品等について質量を計測し記録すること。
- (2) 搭載型測定器の内、海水系検出部は当庁担当職員の指示により、放射能調査艇「さいかい」の修繕請負造船所に納入し、既設の海水系検出部を取り外し、同艇に取り付けること。
なお、海水系検出部以外の各構成部分については、当庁担当職員の指示により、放射能調査艇「さいかい」の定係地に納入し、既設の構成部分を取り外し、同艇に取り付けることを可とする。
- (3) 可搬型測定器にあつては、放射能調査予備艇「ことざくら」の定係地に納入する。
- (4) 上記(2)(3)により、取り外した各放射能測定器については、船艇所属の物品管理官に引き渡すこと。
- (5) 各測定器の初期設定、取付け等については、放射線業務従事者の教育を受けた者が対応すること。
- (6) 納入業者は、放射能調査艇「さいかい」の修繕請負造船所及び定係地並びに放射能調査予備艇「ことざくら」の定係地に上述(5)を満たす技術者を派遣し、各測定器の技術指導及び取扱い等について十分な説明を行うこと。
- (7) 納入業者は、各測定器納入後1年以内に発生した取扱上の過失に起因しない故障、破損及び性能劣化については、無償で速やかに修理もしくは部品交換を行うこと。
- (8) 納品する物品の品目等については、別紙「仕様確認申請書」を提出し、海上保安庁交通部航行安全課長の確認を受け、支出負担行為担当官の承認を得たものとする。
- (9) 本仕様書に定めがない事項及び本仕様書に疑義が生じた場合は、当庁担当職員と協議しその指示に従うこと。
- (10) 契約者は、契約後速やかに「納入物品価格内訳書」を一部提出すること。
- (11) 納入業者は、第10章に掲げる検査及び試験を実施し、結果を報告書にまとめ、海上保安庁交通部航行安全課、第七管区海上保安本部交通部航行安全課及び佐世保海上保安部交通課に各一部提出すること。また、第10章に定める「海上における連続運転検査」及び「海上における雑音検査」にあつては、可能な限り同一環境下において、第七管区海上保安本部佐世保海上保安部所属の放射能調査艇「さいかい」及び放射能調査予備艇「ことざくら」の測定値を互いに比較し、測定値の連続性の確認を行うこと。

- (12) 候補となる機器については、予め海上保安庁に機器リストを提出し、当庁担当職員がサプライチェーン・リスクに係る懸念があると判断した場合には、当庁担当職員と迅速かつ密接に連携し、提案の見直しを図ること。

第2章 装置の概要

各測定器は、空間放射線量率(以下、「線量率」という。)を測定する γ 線エリアモニタ1チャンネルと海水中の放射線計数率(以下、「計数率」という。)を測定する水モニタ1チャンネルにて構成され、 γ 線の線量率及び計数率の計測、情報表示、記録及び警報出力をするものであるほか、別紙に定められた各測定器の仕様を網羅すること。

第3章 安全性の確保

- (1) 設計は、船舶の安全性の確保を基本とし、特に以下の項目には十分留意されたものであること。
- (2) 装置の故障に際しては、安全側に作動するものであること。
- (3) 誤動作を防止するため、操作部は、極力、単純化されたものであること。
- (4) 自己診断機能を持たせ、乗員が装置の故障に素早く対処できるシステムであること。

第4章 構造

既設と同等の規格又は既設より小型軽量で、船の振動、衝撃に十分な耐力を有し、保守容易な構造であること。また、検出器から測定器間の信号ケーブルは、外来雑音(例:レーダ等の電磁波)を受け難い方式等を採用しているものであること。

第5章 表示画面

- (1) 機器の表示画面は、単位等の誤認がないよう極力情報を判断し易いフォーマットで提供するものであること。
- (2) 測定中は、画面にて線量率及び計数率が常時表示されるものであること。
- (3) 測定中は、PC画面の地図上に現在位置が表示されるものであること。

第6章 警報

警報は、続発警報で可視可聴であること。

第7章 操作方式

- (1) 操作方式は、原則として対話方式であること。
- (2) データの記録、パラメータの設定、校正等は、容易に行える方式であること。
- (3) データ収集装置によるデータの記録の他、放射線測定によるスペクトルを画面で確認できるものであること。

第8章 データ収集装置の機能等

データ収集装置は、特別なインターフェイスを使用せずに必要なデータを出力することができること。また、放射能調査艇「さいかい」、放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載された通信機器に接続し、測定データを指定の監視局（監視局は本契約範囲外）へ送信できること。

第9章 塗装

各測定器本体の塗装について、外部塗装はメラミン系樹脂系塗装、焼付け（塗色は5GY8.5/0.5半ツヤ同等以上の方法）を標準とする。

第10章 検査・試験

各測定器の検査・試験にあたり、海上保安庁が指名する検査職員立会いのものと、次に掲げる検査及び試験を実施し、正常に測定されるか確認すること。なお、納入業者は放射線業務従事者の教育を受けた者を立会わせること。

また、検査・試験結果をまとめ、海上保安庁に各1部提出すること。

- ① 外観検査
- ② 寸法検査
- ③ 絶縁抵抗検査
- ④ 本測定器の動作性能試験
- ⑤ 警報出力検査
- ⑥ 記録部の作動試験
- ⑦ 通信試験
- ⑧ 拡張機能に関する信号試験
- ⑨ 海上における連続運転検査
- ⑩ 海上における雑音検査

第11章 提出図書

図書の種類は協議用図書、工事用図書、完成図書の3種類とする。

11.1 協議用図書

納入業者は、協議が必要となった場合には協議用図書2部を海上保安庁に提出し、協議しなければならない。

協議用図書にあつては、搭載型測定器及び可搬型測定器を併せて1部とする。

11.2 据付工事用図書

納入業者は、各測定器の工事に必要な図書を、次に提出すること。

据付工事用図書にあつては、搭載型測定器及び可搬型測定器を併せて1部とする。

(送付先)	(部数)
海上保安庁	2部
第七管区海上保安本部	2部
佐世保海上保安部	1部
放射能調査艇「さいかい」	1部(搭載型測定器分)
放射能調査予備艇「ことざくら」	1部(可搬型測定器分)

11.3 完成図書

納入業者は、完成図書を本測定器納入後、すみやかに次に提出すること。

完成図書にあつては、搭載型測定器、可搬型測定器それぞれ1部とする。

(送付先)	(部数)
海上保安庁	2部(各測定器)
第七管区海上保安本部	2部(各測定器)
佐世保海上保安部	1部(各測定器)
放射能調査艇「さいかい」	1部(搭載型測定器分)
放射能調査予備艇「ことざくら」	1部(可搬型測定器分)

提出図書一覧表

図書名称	協議用 図書 (必要に応じ)	据付 工事用 図書	完 成 図 書 (各測定器 1 部ずつ)
1 機器詳細書	○	—	○
2 工事用図書	—	○	—
3 工場試験方案	○	—	○
4 工場試験成績書	—	—	○
5 取扱説明書	—	—	○
6 機器サービス体制一覧表	○	—	○

注 1. 各図書は、適宜数種類のを 1 冊にまとめ、また、1 種類のを数冊に分けて差し支えない。

2. 各図書は原則として日本語標記とする。

納品場所等内訳書

放射能測定装置				
	名称	数量	納品場所	納品場所住所
放射能測定装置	本体	1 式	定係地係留中の放射能調査艇「さいかい」及び同船修繕請負造船所 ^{※1}	857-0852 長崎県 佐世保市干尽町 4-1 <small>※1 修繕請負造船所にあつては別途通知する。</small>
	予備品	1 式	定係地係留中の放射能調査艇「さいかい」	
放射能測定装置 可搬型	本体	1 式	定係地係留中の放射能調査予備艇「ことざくら」	
	予備品	1 式		

図書			
名称	数量	納品場所	納品場所住所
協議用 図書 (必要に応じ)	2 部	海上保安庁	100-8976 東京都千代田区霞が関 2-1-3
据工事 図 付用書	2 部	海上保安庁	801-0841 長崎県北九州市門司区西海岸 1 丁目 3-10
	2 部	第七管区海上保安本部	
	1 部	佐世保海上保安部	857-0852 長崎県佐世保市干尽町 4-1
	1 部	放射能調査艇「さいかい」 (放射能測定装置分)	
	1 部	放射能調査予備艇「ことざくら」 (可搬型放射能測定装置分)	
完 成 図 成 書	各 2 部	海上保安庁	100-8976 東京都千代田区霞が関 2-1-3
	各 2 部	第七管区海上保安本部	801-0841 長崎県北九州市門司区西海岸 1 丁目 3-10
	各 1 部	佐世保海上保安部	857-0852 長崎県佐世保市干尽町 4-1
	1 部	放射能調査艇「さいかい」 (放射能測定装置分)	
	1 部	放射能調査予備艇「ことざくら」 (可搬型放射能測定装置分)	

放射能測定装置1式ほか2式買入

(放射能測定装置 仕様書)

目次

第1章 構成	1
1.1 本体	1
1.1.1 空間系検出部	1
1.1.2 海水系検出部	1
1.1.3 測定部	1
1.1.4 記録部	1
1.1.5 電源部	1
1.1.6 予備品	2
第2章 仕様	2
2.1 放射線計測記録機能	2
2.1.1 空間 γ 線計測（エリアモニタ）記録機能	2
2.1.2 水中 γ 線計測（水モニタ）記録機能	2
2.1.3 放射線計数值警報機能	2
2.1.4 データ収集装置機能	2
第3章 性能	3
3.1 検出部	3
3.1.1 空間系検出部	3
3.1.2 海水系検出部	3
3.2 測定部	3
3.2.1 測定装置[空間系]	3
3.2.2 測定装置[海水系]	4
3.2.3 記録計	4
3.3 記録部	5
3.3.1 データ収集装置	5
3.3.2 データ収集・処理ソフトウェア	5
3.4 通信機器	5
第4章 周囲条件	6

第1章 構成

放射能調査艇「さいかい」に搭載する放射能測定装置(以下、「搭載型測定器」という。)は次のものを構成すること。

1.1 本体

1.1.1 空間系検出部	1 式
機器名称	数量
(1)NaIシンチレーション検出器	1 台
(2)検出部固定具	1 台
(3)信号線ケーブル	1 式
1.1.2 海水系検出部	1 式
機器名称	数量
(1)NaIシンチレータ検出器	1 台
(2)NaIシンチレータ防水ケース	1 台
(3)信号線ケーブル	1 式 (既設流用)
(4)遮蔽体上部 (ケーシング付き)	1 式 (既設流用)
(5)遮蔽体上蓋 (ケーシング付き)	1 式 (既設流用)
(6)保持用緩衝材	1 式
1.1.3 測定部	1 式
機器名称	数量
(1)空間系用測定装置 (警報出力内蔵型)	1 台
(2)海水系用測定装置 (警報出力内蔵型)	1 台
(3)警報ボックス	1 台
(4)空間系用記録計	1 台
(5)海水系用記録計	1 台
(6)防振台 (両測定装置、両記録計を収納)	1 台
1.1.4 記録部	1 式
機器名称	数量
(1)データ収集装置本体	1 台
(2)データ収集・処理ソフトウェア	1 式
1.1.5 電源部	1 式
機器名称	数量
(1)無停電電源装置	1 台
(2)電源部固定具	1 式

1. 1. 6 予備品	1式
機器名称	数量
(1) ヒューズ	現用の100%
(2) 記録紙	10巻
(3) 記録紙用ペン	2本
(4) 空間系NaIシンチレタ検出器(信号ケーブル付き)	1台
(5) 海水系NaIシンチレタ検出器(信号ケーブル付き)	1台
(6) データ収集装置	1式

第2章 仕様

搭載型測定器は次の機能を有するものであること。

2.1 放射線計測記録機能

2.1.1 空間 γ 線計測（エリアモニタ）記録機能

1チャンネルにて構成され、大気中の空間 γ 線を検出し、放射線の検出信号を増幅し、測定部に送り出すこと。測定部では、信号をスケーラー方式で線量処理して、デジタル指示計等に線量率及び計数率を表示し、データ収集装置及び記録計に記録を行うこと。また、測定時間は1系統で、測定時間は任意可変であること。

2.1.2 水中 γ 線計測（水モニタ）記録機能

1チャンネルにて構成され、水中の放射性物質から放出される γ 線を検出し、前頁(1)エリアモニタと同様の方法により、デジタル指示計等に計数率を表示し、データ収集装置及び記録計に記録を行うもの。また、測定時間は2系統（短時間及び長時間）の設定ができ、測定時間は任意可変であること。

2.1.3 放射線計数値警報機能

エリアモニタの線量率及び水モニタの計数率が警報設定値を超えた場合は、警報を発生する機能を有するものであること。

2.1.4 データ収集装置機能

(1) 測定装置

線量率及び計数率の上昇原因調査等に使用する、波高分析機能を有すること。

(2) データ収集装置

積算時間は、測定者が任意の時間で設定できること。

画面表示で線量率及び計数率とスペクトルが同時に確認できること。また、複数のスペクトルを表示でき、更に積算ができそのスペクトルを表示できること。

電子記録媒体へのデータ記録等への対応

放射線計測記録した値及びGPS等の航海計器からのデータを、データ処理装置により電子記録媒体（USBメモリー等）へのデータ記録が可能であること。

また、データ記録したデータは容易に確認ができるよう汎用性のあるフォーマット（CSV形式等）で出力されること。

(3)測定データの送信

放射能調査艇「さいかい」に搭載された通信機器LAN I/F (10base-T、若しくは100base-TX) を介して監視局と接続し、測定データを指定フォーマット (1分データをFTP-PUT) で送信すること。

測定データの内訳については、3.4項に記載する。

(4)測定結果の演算

任意の時刻間のデータ (線量率、計数率) の最高値、最低値、平均値及び標準偏差を一覧表にして汎用プリンタでプリントアウトできること。

第3章 性能

搭載型測定器は以下の性能を有すること。

3.1 検出部

3.1.1 空間系検出部

- | | |
|-----------|---|
| (1)測定対象 | 空間 γ (X) 線 |
| (2)検出部 | 2" ϕ \times 2" NaI (Tl) シンチレータ |
| (3)温度補償範囲 | +5 \sim +45 $^{\circ}$ C |
| (4)温度安定度 | 上記範囲で 137 Csフォトピーク662keVの出力波高に対して $\pm 2\%$ 以内 |
| (5)分解能 | 137 Csフォトピーク662keVの出力波高に対して8%以下 |
| (6)高圧電源 | 内蔵 |
| (7)構造 | 検出器を覆うカバーの厚さの合計が5.3mmとなるアルミ製のものとし、防振構造の金具に固定できること。 |

3.1.2 海水系検出部

- | | |
|-----------|---|
| (1)測定対象 | 海水中 γ (X) 線 |
| (2)検出部 | 3" ϕ \times 3" NaI (Tl) シンチレータ |
| (3)温度補償範囲 | +5 \sim +45 $^{\circ}$ C |
| (4)温度安定度 | 上記範囲で 137 Csフォトピーク662keVの出力波高に対して $\pm 2\%$ 以内 |
| (5)分解能 | 137 Csフォトピーク662keVの出力波高に対して8%以下 |
| (6)高圧電源 | 内蔵 |
| (7)構造 | 取付金具付を考慮したもの。 |

3.2 測定部

3.2.1測定装置[空間系]

- | | |
|---------------|--|
| (1)表示方式 | TFTカラーLCD (内蔵) |
| (2)表示内容 | 線量率、計数率、スペクトル、日付時刻、測定時間 |
| (3)測定項目 | 線量率(nGy/h)、計数率(s^{-1})、スペクトル |
| (4)表示範囲 | 線量率: 0.1 \sim 99999.9nGy/h、計数率: 0.1 \sim 999999.9 s^{-1} |
| (5)測定時間 | データ出力の場合
プリセットタイム設定: 1 \sim 9999secで任意設定可能 |
| (6)ADC | 逐次比較型 |
| (7)チャンネル数 | 1000ch以上(5MeV相当) |
| (8)計数容量 | 999999カウント/ch |
| (9)測定エネルギー範囲 | 50keV \sim 3MeV |
| (10)エネルギー補償方式 | G(E)関数荷重演算方式(デジタル式) |

(11) 設定方式	デジタル方式 (操作しやすいもの)
(12) ゲイン設定	半自動設定 (^{137}Cs 線源照射による)
(13) 自動補正機能	^{40}K を用いたゲイン補正を採用
(14) 警報設定	任意設定 (設定値以上でブザー鳴動)
(15) データ保存	装置内蔵メモリ内に保存
(16) 記憶容量	線量率、計数率データ : 4000データ以上 スペクトルデータ : 150データ以上
(17) 外部出力	デジタル出力 (PC用) リムーバブルメディアによる出力 アナログ (記録計用)
(18) 外形寸法	約482×335×177mm以下 (船内設置スペースに十分収まる寸法のもの)
(19) 電源	AC100V 約100VA
(20) その他	検出器、測定器の取り付けは防振支持構造

3.2.2 測定装置[海水系]

(1) 表示方式	TFTカラーLCD (内蔵)
(2) 表示内容	計数率、スペクトル、日付時刻、測定時間
(3) 測定項目	計数率(s^{-1})、スペクトル
(4) 表示範囲	計数率 : 0.1~999999.9 s^{-1}
(5) 測定時間	データ出力の場合 プリセットタイム設定 : 1~9999secで任意設定可能 (2系統)
(6) ADC	逐次比較型
(7) チャンネル数	1000ch以上 (5MeV相当)
(8) 計数容量	999999カウント/ch
(9) 測定エネルギー範囲	50keV~3MeV
(10) 設定方式	デジタル方式 (操作しやすいもの)
(11) ゲイン設定	半自動設定 (^{137}Cs 線源照射による)
(12) 自動補正機能	^{40}K を用いたゲイン補正を採用
(13) 警報設定	任意設定 (設定値以上でブザー鳴動)
(14) データ保存	装置内蔵メモリ内に保存
(15) 記憶容量	計数率データ : 4000データ以上 スペクトルデータ : 150データ以上
(16) 外部出力	デジタル出力 (PC用) リムーバブルメディアによる出力 アナログ (記録計用)
(17) 外形寸法	約482×335×177mm以下 (船内の設置スペースに十分収まる寸法のもの)
(18) 電源	AC100V 約100VA
(19) その他	検出器、測定器の取り付けは防振支持構造

3.2.3 記録計

(1) 入力打点数	2ペン (空間系×1、レンジマーカー×1) 4ペン (水中系×2、レンジマーカー×2)
(2) 表示方式	VFD (101×16ドットマトリックス)
(3) 設定画面表示	各種設定を対話式で表示
(4) 記録紙送り速度	5~12000mm/h (82段階)
(5) 記録周期	チャンネルごとに連続記録
(6) 電源電圧	100V~240VAC (自動切替)

- (7)消費電力 約12VA
 (8)その他 任意の地点で記録紙にマーキングできるもの

3.3 記録部

3.3.1 データ収集装置

データ収集装置本体は以下の機能を有すること。

ハード構成	ノート型PC
CPU	インテル® Core™i7 第10世代以上
ディスプレイ	TFTカラー液晶 14型 解像度：1,920×1,600を標準とする
メモリ	16GB 以上
ストレージ	SSD 512GB 以上
OS	Windows 11 Pro
インストールソフト	Office Professional 2021

3.3.2 データ収集・処理ソフトウェア

データ収集・処理ソフトウェアは、空間系及び海水系の測定装置と接続し、以下の機能を有すること。

- (1)自動測定機能付(各測定装置への測定開始停止制御)
- (2)放射能調査艇「さいかい」搭載に搭載されたGPS装置から配信された信号をデータ収集装置に取り込み、緯度経度データを保存
- (3)放射能調査艇「さいかい」搭載に搭載されたGPS装置から配信された信号から現在位置情報を地図(最新のもの)に表示
- (4)トレンド、マップ処理：測定日時、測定地点、線量率、計数率
- (5)レポート処理：測定日時、測定地点、線量率、計数率、天候
- (6)スペクトル処理：スペクトル間演算、アンフォールディング処理等
- (7)データ保存：ハードディスク又はリムーバブルメディア
- (8)時刻：GPS装置から時刻情報を収集し、測定器の時刻に関して統一時刻とする。
- (9)データ処理のための文章作成、表計算、関数、画像編集、グラフ作成、プレゼンテーション、リレーショナルデータベースマネジメントシステム機能を有するソフトウェア(汎用オフィスとの互換性を持つもの)をインストールすること。

3.4 通信機器

データ収集装置を放射能調査艇「さいかい」に搭載された通信機器に接続し、次の測定データを送信すること。

回線のトラブル等で伝送できなかった測定データについては、トラブル復旧後に保存されている分のデータを自動的に再伝送すること。

なお、ファイル数、測定項目の内訳は次のとおり。

ファイル数：最大5種類

測定者が任意に測定するため、空間系のみ、海水系のみの場合もある。

また、測定者が任意のタイミングで測定の開始・停止を行うため、正分にデータが作成されとは限らない。

測定時間は測定系により異なる

- (1)空間系：線量率・計数率(測定時間1：30～9999秒)

スペクトル(線量率・計数率と連動)

- (2)海水系：計数率(測定時間1：30～9999秒)

スペクトル(測定時間2×指定整数倍数の値が30～9999秒)

測定項目

- (1) 測定日時
- (2) 測定地点 (緯度・経度)
- (3) 線量率 (nGy/h) (空間系)
- (4) 計数率 (s^{-1}) (空間系、海水系)
- (5) スペクトル (空間系、海水系)
- (6) 線量率高警報 (空間系)
- (7) 線量率低警報 (空間系)
- (8) 計数率高警報 (海水系)
- (9) 計数率低警報 (海水系)

第4章 電源

本測定器の電源は、小型の無停電装置を設けること。また、次の電源条件で正常に作動すること。

AC 100V + 10%、- 10%、1 ϕ 、50/60Hz \pm 2% (いずれも整定時)
停電保持時間 65分以上 (保持時間に関しては、支給品の通信機器も含めた保持時間とすること)

第5章 周囲条件

本測定器は、第1章記載のJIS規格及び第5章で記載される周囲条件のほか、次の周囲条件で、正常に作動すること。

- (1) 温度 0 ~ 45 $^{\circ}$ C
- (2) 湿度 90%以下 (ただし、結露しない)
測定装置、PC等屋内設置機器を除く
- (3) 傾斜 動的傾斜 22.5 $^{\circ}$ 周期10秒
静的傾斜 22.5 $^{\circ}$
- (4) 振動 2 ~ 13.2Hzまでは振幅 \pm 1mm
13.2 ~ 100Hzまでは加速度 \pm 6.9m/s²

第6章 構造

第5章の耐環境性を有する構造とする。また、取付けに必要な金具等を用意すること。

放射能測定装置1式ほか2式買入
(可搬型放射能測定装置 仕様書)

目次

第1章 構成	1
1.1 本体	1
1.1.1 空間系検出部	1
1.1.2 海水系検出部	1
1.1.3 測定部	1
1.1.4 記録部	1
1.1.5 警報出力部	2
1.1.6 予備品	2
第2章 仕様	2
2.1 放射線計測記録機能	2
2.1.1 空間 γ 線計測記録機能(エリアモニタ)	2
2.1.2 水中 γ 線計測記録機能(水モニタ)	2
2.1.3 放射線計数値警報機能	2
2.1.4 データ収集装置機能	3
第3章 性能	3
3.1 検出部	3
3.1.1 空間系検出部	3
3.1.2 海水系検出部	4
3.2 測定部	4
3.2.1 スペクトロメータ(測定装置)[空間系]	4
3.2.2 スペクトロメータ[海水系]	5
3.2.3 記録計	6
3.3 記録部	6
3.3.1 データ収集装置	6
3.3.2 データ収集・処理ソフトウェア	6
3.4 通信機器	7
第4章 電源	8
第5章 周囲条件	8
第6章 構造	8

第1章 構成

放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載する可搬型放射能測定装置(以下、「可搬型測定器」という。)は、次のものを構成すること。

1.1 本体

1.1.1 空間系検出部

機器名称	数量
2 インチφ×2 インチ NaI(Tl)シンチレーション検出器	1 台
検出器固定具	1 台
信号ケーブル	1 式
保管用ケース	1 式

1.1.2 海水系検出部

機器名称	数量
3 インチφ×3 インチ NaI(Tl)シンチレーション検出器	1 台
検出器固定具 (防水カバー)	1 台 (既設流用可)
信号ケーブル	1 式
船体取付金具 (既設流用)	1 台
保管用ケース	1 式

1.1.3 測定部

機器名称	数量
スペクトロメータ (空間系用)	1 台
スペクトロメータ (海水系用)	1 台
スペクトロメータ収納ケース	2 式

1.1.4 記録部

機器名称	数量
データ収集装置 (ソフトウェアを含む)	1 台
記録計 (空間系用)	1 台
記録計 (海水系用)	1 台
記録部収納ケース (両記録計を収納)	1 台

1.1.5 警報出力部

機器名称	数量
警報出力装置 (測定部もしくは記録部に内蔵してもよい)	1台

1.1.6 予備品

ヒューズ	現用の100%	
記録紙	10巻	
記録用ペン	1式	
2インチφ×2インチ NaI(Tl)シンチレーション検出器		1台
3インチφ×3インチ NaI(Tl)シンチレーション検出器		1台
データ収集装置 (ソフトウェアを含む)		1式

第2章 仕様

可搬型測定器は、次の機能を有するものであること。

2.1 放射線計測記録機能

2.1.1 空間γ線計測記録機能(エリアモニタ)

エリアモニタは1チャンネルにて構成され、大気中の空間γ線を検出し、放射線の検出信号を増幅し、測定部に送り出すものであること。測定部では、信号をスケーラー方式で線量処理して、デジタル指示計等に線量率及び計数率を表示し、データ収集装置及び記録計に記録を行うものであること。なお、測定時間は1系統の設定ができ、測定時間は任意可変とする。

2.1.2 水中γ線計測記録機能(水モニタ)

水モニタは1チャンネルにて構成され、水中の放射性物質から放出されるγ線を検出し、前頁2.1.1 エリアモニタと同様の方法により、デジタル指示計等に計数率を表示し、データ収集装置及び記録計に記録を行うものであること。なお、測定時間は2系統(短時間及び長時間)の設定ができ、測定時間は任意可変とする。

2.1.3 放射線計数値警報機能

エリアモニタの線量率及び水モニタの計数率が警報設定値を超えた場合は警報を発生する機能を有するものであること。

2.1.4 データ収集装置機能

(1) スペクトロメータ

線量率及び計数率の上昇原因調査等に使用する、波高分析計を有すること。

(2) データ収集装置

積算時間は、測定者が任意の時間で設定できるものであること。

画面表示で線量率及び計数率とスペクトルが同時に確認できるものであること。

また、複数のスペクトルを表示でき、更に積算ができそのスペクトルを表示できるものであること。

(3) 電子記録媒体へのデータ記録等への対応

エリア及び水中の各モニタ並びに放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載されたGPS等の航海計器からのデータを、データ処理装置により電子記録媒体（USBメモリー等）へのデータ記録が可能なものであること。

なお、データは他のパソコンにおいても容易に確認ができるよう汎用性のあるフォーマット（CSV形式）であること。

(4) 測定結果の演算

任意の時刻間のデータ（線量率、計数率）の最高値、最低値、平均値及び標準偏差を一覧表にして汎用プリンタでプリントアウトできること。

(5) 通信機器

放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載された通信機器 LAN I/F（10base-T、若しくは 100base-TX）を介して監視局と接続し、測定データを指定フォーマット（1分データをFTP-PUT）で送信すること。

測定データの内訳については、3.4項に記載する。

第3章性能

可搬型測定器は、以下の性能を有するものであること。

3.1 検出部

3.1.1 空間系検出部

- | | |
|-----------|--|
| (1)測定対象 | 空間 γ (X) 線 |
| (2)検出部 | 2インチ ϕ ×2インチ NaI(Tl)シンチレータ |
| (3)温度補償範囲 | +5～+45℃ |
| (4)温度安定度 | 上記範囲で ¹³⁷ Cs フォトピーク 662keV の出力波高に対して
±2%以内 |
| (5)分解能 | ¹³⁷ Cs フォトピーク 662keV の出力波高に対して 8%以下 |
| (6)高圧電源 | 内蔵 |

- (7) 構造 検出器検出器を覆うカバーの厚さの合計が 5.3mm となるアルミ製のものとし、防振構造とする

3.1.2 海水系検出部

- (1) 測定対象 海水中 γ (X) 線
 (2) 検出部 3 インチ ϕ × 3 インチ NaI(Tl) シンチレータ
 (3) 温度補償範囲 +5 ~ +45°C
 (4) 温度安定度 上記範囲で 137Cs フォトピーク 662keV の出力波高に対して $\pm 2\%$ 以内
 (5) 分解能 137Cs フォトピーク 662keV の出力波高に対して 8% 以下
 (6) 高圧電源 内蔵
 (7) 構造 船体固定金具は既設流用すること。検出器固定具 (防水カバー) は既設と同等の規格または既設より小型軽量化をはかり、また水流による負荷を軽減するため羽根を取り付けること。

3.2 測定部

3.2.1 スペクトロメータ (測定装置) [空間系]

- (1) 表示方式 TFT カラーLCD (内蔵又はデータ収集装置ディスプレイ等にて表示できる場合は省略することができる)
 (2) 表示内容 線量率、計数率、スペクトル、日付時刻、測定時間
 (3) 測定項目 線量率 (nGy/h)、計数率 (s⁻¹)、スペクトル
 (4) 表示範囲 線量率 : 0.1 ~ 99999.9 nGy/h、計数率 : 0.1 ~ 999999.9 s⁻¹
 (5) 測定時間 データ出力の場合
 プリセットタイム設定 : 1 ~ 9999 sec で任意設定可能
 (6) A D C 逐次比較型
 (7) チャンネル数 1000ch 以上 (5MeV 相当)
 (8) 計数容量 999999 カウント/ch
 (9) 測定エネルギー範囲 50keV ~ 3MeV
 (10) エネルギー補償方式 G(E) 関数荷重演算方式 (デジタル方式)
 (11) 設定方式 デジタル方式 (操作しやすいもの)
 (12) ゲイン設定 半自動設定 (137Cs 線源照射による)
 (13) 警報設定 任意設定 (設定値以上でブザー鳴動)
 (14) データ保存 装置内蔵メモリ内に保存
 (15) 記憶容量 線量率、計数率データ : 4000 データ以上
 スペクトルデータ : 150 データ以上

- (16)外部出力 デジタル出力(PC用)
リムーバブルメディアへの出力
アナログ(記録計用)
- (17)外形寸法 (W) 550 mm× (D) 650 mm× (H) 350 mm 以下
収納ケースへ入れた状態とする。取っ手等の突起物は含まないものとする。
- (18)電 源 AC100V 約 100VA
- (19)質 量 30kg 以下(収納ケースへ入れた状態とする。)
- (20)そ の 他 収納ケースは前後のカバーを取り外すことで各機器との接続を行い、測定可能な構造とする。

3.2.2 スペクトロメータ[海水系]

- (1)表示方式 TFT カラーLCD (内蔵又はデータ収集装置ディスプレイ等にて表示できる場合は省略することができる)
- (2)表示内容 計数率、スペクトル、日付時刻、測定時間
- (3)測定項目 計数率(s^{-1})、スペクトル
- (4)表示範囲 計数率：0.1～999999.9 s^{-1}
- (5)測定時間 データ出力の場合
プリセットタイム設定：1～9999sec で任意設定可能(2系統)
- (6)A D C 逐次比較型
- (7)チャンネル数 1000ch 以上(5MeV 相当)
- (8)計数容量 999999 カウント/ch
- (9)測定エネルギー範囲 50keV～3MeV
- (10)設定方式 デジタル方式(操作しやすいもの)
- (11)ゲイン設定 半自動設定(^{137}Cs 線源照射による)
- (12)警報設定 任意設定(設定値以上でブザー鳴動)
- (13)データ保存 装置内蔵メモリ内に保存
- (14)記憶容量 計数率データ : 4000 データ以上
スペクトルデータ : 150 データ以上
- (15)外部出力 デジタル出力(PC用)
リムーバブルメディアへの出力
アナログ(記録計用)

- (16)外形寸法 (W) 550 mm× (D) 650 mm× (H) 350 mm 以下
 収納ケースへ入れた状態とする。取っ手等の突起物は含まないものとする。
- (17)電 源 AC100V 約 100VA
- (18)質 量 30kg 以下(収納ケースへ入れた状態とする。)
- (19)そ の 他 収納ケースは前後のカバーを取り外すことで各機器との接続を行い、測定可能な構造とする。

3.2.3 記録計

- (1)入力打点数 2ペン(空間系×1、レンジマーカー×1)
 4ペン(水中系×2、レンジマーカー×2)
- (2)表示方式 VFD(101×16ドットマトリクス)
- (3)設定画面表示 各種設定を対話式で表示
- (4)記録紙送り速度 5～12000 mm/h(82段階)
- (5)記録周期 チャンネルごとに連続記録
- (6)電源電圧 100～240V(自動切替)
- (7)消費電力 約 12VA
- (8)そ の 他 任意の地点で記録紙にマーキングできること。

3.3 記録部

3.3.1データ収集装置

ハード構成	ノート型 PC
C P U	インテル® Core™i7 第 10 世代以上
ディスプレイ	TFT カラーLCD 14 型
メモ リ	16GB 以上
H D D	SSD 512GB 以上
O S	Windows 11 Pro
インストールソフト	Office Professional 2021

3.3.2データ収集・処理ソフトウェア

データ収集・処理ソフトウェアは、空間系及び海水系の測定装置と接続し、以下の機能を有すること。

- (1)自動測定機能(測定装置の測定開始及び停止制御)
- (2)測定時間設定機能

- (3)放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載されたGPS装置から配信された信号をデータ収集装置に取り込み、緯度経度データを保存
- (4)放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載されたGPS装置から配信された信号から現在位置情報を地図（最新のもの）に表示
- (5)線量率処理機能：測定日時、測定地点、線量率、計数率、天候等の帳票及びトレンド作成、マップ処理等
- (6)スペクトル処理機能：スペクトル間演算、アンフォールディング処理等
- (7)データ出力機能：リムーバルメディアへの出力

3.4 通信機器

データ収集装置を放射能調査予備艇「ことざくら」に搭載された通信機器に接続し、次の測定データを送信すること。

回線のトラブル等で伝送できなかった測定データについては、トラブル復旧後に保存されている分のデータを自動的に再伝送すること。

なお、ファイル数、測定項目の内訳は次のとおり。

ファイル数：最大5種類

測定者が任意に測定するため、空間系のみ、海水系の場合もある。

また、測定者が任意のタイミングで測定の開始・停止を行うため、正分にデータが作成されとは限らない。

測定時間は測定系により異なる。

空間系：線量率・計数率（測定時間1：30～9999秒）

 スペクトル （線量率・計数率と連動）

海水系：計数率 （測定時間1：30～9999秒）

 スペクトル （測定時間2×指定整数倍数の値が30～9999秒）

測定項目

- (1)測定日時
- (2)測定地点（緯度・経度）
- (3)線量率(nGy/h) (空間系)
- (4)計数率(s^{-1}) (空間系、海水系)
- (5)スペクトル (空間系、海水系)
- (6)線量率高警報 (空間系)
- (7)線量率低警報 (空間系)
- (8)計数率高警報 (海水系)
- (9)計数率低警報 (海水系)

第4章 電源

次の電源条件で正常に作動しなければならないものとする。

AC100V+10%、-10%、1φ、50/60Hz±2% (いずれも整定時) 所要電力：約 500VA

第5章 周囲条件

本測定器は、第1章記載の JIS 規格及び第5章で記載される周囲条件のほか、次の周囲条件で、正常に作動しなければならないものとする。

- (1) 温度 0～45℃
- (2) 湿度 90%以下 (ただし、結露しない)
- (3) 傾斜 動的傾斜 22.5° 周期 10 秒
静的傾斜 22.5°
- (4) 振動 2～13.2Hz までは振幅±1 mm
13.2～100Hz までは加速度±6.9m/s²

第6章 構造

第5章の耐環境性を有する構造とする。また、取付けに必要な金具等を用意すること。

仕様確認申請書

年 月 日

海上保安庁 交通部 航行安全課長 経由
支出負担行為担当官
海上保安庁総務部長 殿

(競争参加者の)

住 所

商号又は名称

代表者名

貴庁が公示した入札公告「放射能測定装置1式ほか2式買入」について、カタログ等物品の仕様確認に必要な資料を添えて申請します。

※以下は押印を省略する場合のみ記載すること。

(連絡先は2以上記載すること)

本件責任者(会社名・部署名・氏名) :

担当者(会社名・部署名・氏名) :

連絡先1 :

連絡先2 :

別 紙

件 名

放射能測定装置1式ほか2式買入

	品 目	規 格 等	数 量	※合否 の判定	備 考
1				合・否	
2				合・否	
3				合・否	
4				合・否	
5				合・否	
6				合・否	
7				合・否	
8				合・否	
9				合・否	
10				合・否	
11				合・否	
12				合・否	
13				合・否	
14				合・否	
15				合・否	

※欄は、海上保安庁で使用するので記入しないで下さい。

※	最終判定
	合 ・ 否